

本学に蓄積された学術成果の発信／東京の地形・地質に関する最先端の研究成果を紹介

企画展「東京の大地を探る - 関東平野 300 万年の歴史 -」を開催

平成25年10月26日(土)～11月10日(日)

～11月4日(月・休)には講演会を開催～

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループは、企画展「東京の大地を探る - 関東平野 300 万年の歴史 -」を、首都大学東京南大沢キャンパス 91 年館にて開催します。昨年度から数えて 4 回目となる本企画展では、身近な自然である東京の地形・地質とそれに関連する最新の研究成果を豊富な地図・写真・地質試料などをもとに紹介します。

期間中には、東京の台地と低地の成り立ち、東京周辺の地震・活断層をテーマにした講演会も開催します。親しみやすい内容を最新の研究成果をまじえて解説します。

企画展、講演会とも、観覧・参加費無料、申込不要ですので、ぜひご参加ください。また、報道機関各社様からの企画展、講演会の取材も歓迎いたします。

○ 企画展「東京の大地を探る - 関東平野 300 万年の歴史 -」 概要

- ◆ 開催期間 平成25年10月26日(土)～11月10日(日) 11時～17時 ※会期中無休
- ◆ 開催場所 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館
(京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分)
- ◆ その他 観覧無料、申込不要

○ 講演会「東京の大地を探る - 地震と平野の成り立ち -」 概要

- ◆ 開催日時 平成25年11月4日(月・休) 10時～16時
- ◆ 会場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 「多目的ホール」
- ◆ その他 参加無料、申込不要 ※会場定員100名。



上空から見た関東平野と富士山



八王子市長沼公園で見られる地層

企画展及び講演会の詳細は、別紙資料をご覧ください

＜お問合せ・取材申込先＞

首都大学東京 91 年館 学芸員養成課程展示室
電話：042-677-1111 (内線 2041)

企画展

東京の大地を探る

—関東平野 300 万年の歴史—

関東平野は、川や海、地殻変動、そして火山噴火などさまざまな作用により、300 万年前から今日までの長い時間を経て、現在の姿にかたち作られました。多摩地域北東部から都心部にかけて広がる武蔵野台地は、かつての多摩川が形成した扇状地や古東京湾の海底でした。一方、多摩地域南部の多摩丘陵はさらに古い時代に形成された相模川の扇状地などに起源をもちます。

また、これらの地形を覆う関東ローム層には、富士山や箱根火山の火山灰・軽石が含まれ、火山の影響を受けてきたことを示します。そして、武蔵野台地にのびる立川断層は、過去何十万年の間に時々活動し、マグニチュード7前後の大規模な直下型地震を発生させ、地表面を変形させてきました。

首都大学東京では、東京の地形と地質について、火山灰や立川断層に着目し、研究を重ねてきました。本展示では、これらの最新の研究成果を、豊富な地図・写真・地質試料などをもとに紹介します。また、11月4日（月・休）には武蔵野台地と東京低地の成り立ち、東京周辺の地震・活断層をテーマにした講演会を開催します。

基本情報

- ◆ 会 期 平成25年10月26日（土）～11月10日（日）※会期中無休
- ◆ 時 間 11:00～17:00 ※観覧無料
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館
京王相模原線「南大沢駅」下車 徒歩約5分
- ◆ 主 催 首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ
- ◆ 展示内容 ○東京・多摩の地学スポット紹介 ○東京で採取された地質試料 ○東京の地形・地質に関する最先端の研究成果

講演会

東京の大地を探る

—地震と平野の成り立ち—

基本情報

- ◆ 日 時 平成25年11月4日（月・休）10:00～16:00
- ◆ 会 場 首都大学東京 南大沢キャンパス 91年館 多目的ホール
定員100名・参加無料・事前申し込み不要
- ◆ 講 演 者 鈴木 毅彦（首都大学東京都市環境学部 教授）
（講演順） 村岸 純（東京大学地震研究所 特任研究員）
久保 純子（早稲田大学教育学部 教授）
吉岡 敏和（産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 活断層評価研究チーム長）

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ 企画展の特色 ～ これまでの企画展等について ～

首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループは、本学所蔵の標本・資料類および基礎科学分野の研究成果について発信するための連携体制・拠点の構築を目指しており、昨年度より年 2 回企画展を開催しています。昨年度実施の企画展「東京の大自然と生命科学研究」、「紀元前 540 年—縄文の森とムラづくり—」、さらに今年度「多摩のいま・むかし—八王子の山城・中野村の象—」に続き、第 4 回の企画展として「東京の大地を探る —関東平野 300 万年の歴史—」を開催します。

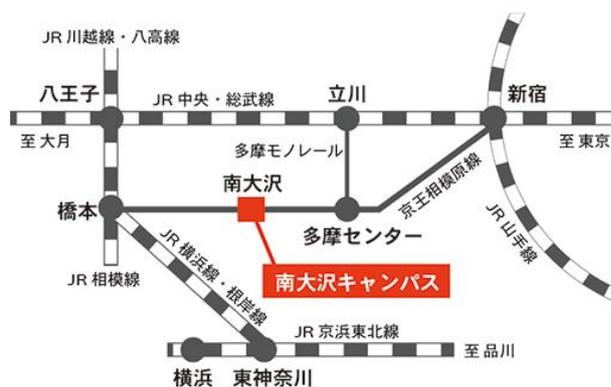
本展示の特色の一つとして、「研究・教育の成果の公開」が挙げられます。展示の製作には、平成 25 年度「博物館実習 I」をとおして、本学の学芸員養成課程の学生も参加します。

企画展の他にも、常設展示として、本学南大沢キャンパス 91 年館「学芸員養成課程展示室」では、本学内の 7 つの分野（日本史学、動物系統分類学、植物系統分類学、地形・地質学、考古学、社会人類学、芸術学）が保有する研究資料・標本類をご覧いただけます。本学の所在する東京・多摩地区に密着した研究成果から、世界各国の話題に至るまで、最新の研究成果を親しみやすく紹介しています。

会場までのアクセス

交通アクセス

京王相模原線「南大沢駅」下車徒歩約 5 分
※一般車両の駐車場はございませんので、
公共交通機関にてお越しください。



周辺案内

南大沢駅改札口を出て右手奥に南大沢キャンパスが見えます。

正門の手前で左折、130m 程進むと 91 年館です。
大学構内には入らずにお越しいただけます。

首都大学東京 91 年館 学芸員養成課程展示室 <http://www.comp.tmu.ac.jp/gakugei/index.html>

研究代表者 山田 昌久 (教授 所属：都市教養学部 歴史・考古学教室)
本企画展責任者 鈴木 毅彦 (教授 所属：都市環境学部 地理学教室)